

やさいづくりの記 その4



— 訪問者たち —

家庭菜園を始めて13年、この間私の畑にやって来て、私の心を癒してくれた、私を困らせてくれたものたちのことを書いてみます。

【人懐っこい小鳥、セキレイ】

寒さも峠を越えた2月の半ば、ジャガイモを植える準備が始まります。酸性になった土を中和するための苦土石灰を撒き、耕運機ですき込みます。そのとき必ずやってくるのが、カラスとセキレイです。セキレイは大変に人懐っこく、私のすぐそばまでやって来て、しきりに何かをついばんでいます。土中から掘り起こされた、私には見えない小さな虫を食べているのでしょうか。からだの割りに長いシッポをさかんに震わせながら、ピッ! ピッ! と啼いて動き回る様子は、本当に愛らしいものです。



ハクセキレイ

カラスは、警戒心が強く、私からずっと離れたところで、これまた何かをついばんでいます。

この光景は、私が耕運機で土おこしをするたびに、1年中続きます。

【幻想的なモンシロチョウの群舞】

5月中旬、初夏の季節になると、3月に種を撒いた春キャベツがかなり大きく成長します。ある日畑に行くと、畑の一角が、約1メートルほどの高さで白くもやっていました。何かと思って近づくと、そこはキャベツを植えたスペースで、なんと無数のモンシロチョウが、その一角だけに群れ飛んでいたのです。おそらく、私の畑は、農業も使わず、殺虫剤による消毒もしていないため、モンシロチョウたちが、その幼虫(青虫)の大好物であるキャベツに集まったのでしょう。これは生まれて初めて見る幻想的な光景でしたので、しばし見とれてしまいました。ところがその後が大変でした。1週間もたつと、大量の青虫が発生し、キャベツの葉の部分を食べつくしてしまい、キャベツは、スジばかりの衰えな姿になってしまいました。結局対策として、モンシロチョウには大変申し訳なかったのですが、寒冷紗でキャベツを覆うようにしましたので、あの幻想的なモンシロチョウの群舞を見ることは二度とできなくなりました。



モンシロチョウ

このほか、初夏から初秋にかけて、トラフシジミ、コムラサキ、ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハなど、様々なチョウウチョが私の畑を訪れて、優雅な舞を見せてくれます。

【ミツバチのおかげ】

5月も末になると夕顔が花をつけ始めます。雄花の花粉が雌花についたものに実がなります。この受粉の作業をしてくれるのはミツバチのようです。あの小さいミツバチが、朝から晩まで花の蜜を集めながら、受粉をしてくれるのです。そう考えると



ミツバチ

子どもの頃はあまり好きではなかった蜂たちも、愛おしくなってきます。また、本来山に居たはずの、スズメ蜂が最近、民家の周辺で頻繁に見られるようになりました。オオスズメ蜂やキスズメ蜂が飛行機のような大きい羽音を響かせて飛んでいるのをたまに見ますが、これは愛しいなんてのんびりしたことは言っておられません。

【日本の国鳥、キジが・・・】

6月中旬、我が家の近所の田んぼでは、一斉に麦の収穫が始まります。前回は書きましたように、夕顔・スイカ・きゅうり等の、ツルもの野菜の実が、土に触れて腐らないように敷き藁をしますが、そのための麦わらを知り合いの農家から分けてもらい、それぞれの野菜のツルが伸びていくスペースに敷き詰めます。すると、カラスよりはるかに大きな鳥がやってきて、私のいるすぐそばの麦わらをつつき始めました。それはなんと、「キジ」のカップルで、麦わらに残っている麦をついばんでいるのです。こんなに間近で見たのは、生まれて初めてのことであり、まさに日本の国鳥「キジ」との感動的な出会いでありました。



《日本の国鳥、キジ》

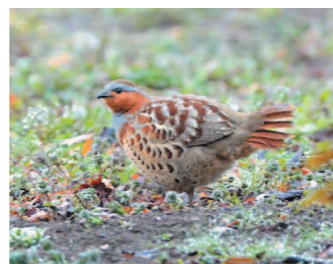
ここ10年くらい、山にしかいないはずのキジが、3月ころになると、食糧の豊富な平地に下りてきて、恋をし、卵を産み、そして子育てをするようになったようです。優美な姿形(すがた)で人目を引くのはオスで、人間の社会とは全く逆のようでした。そして、昔子どものころ、山でキジを見かけたときなど、すぐに逃げてしまったのですが、最近のキジは、人間に対する警戒心もかなり薄れたようで、私が農作業をするすぐそばで、無心に麦をついばっていました。人間と他の生きものとの関係も変化している、ということを実感させられました。

【真冬の来客たち】

12月に入ると、殆どの木の実も無くなり、小鳥たちも食糧の確保に苦労するようになります。いつもは畑に来ることのない、ヒヨドリやムクドリ、そしてコジュケイ、ジョウビタキなどが、畑の緑の葉っぱを食べにやってきます。特に真冬に元気になる、ブロッコリーやカリフラワーの葉を好んで食べています。これらの野菜は、人間は花(つぼみ)を、小鳥たちは葉を、というようにすみわけがうまくできている野菜といえるでしょう。



ムクドリ



コジュケイ

【カラスとの知恵比べ】

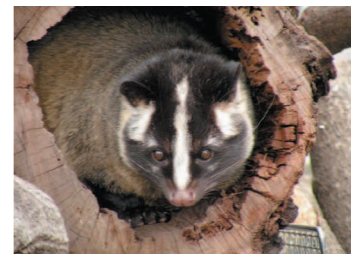
来てほしくないお客の筆頭はカラス、前回は書きましたように、スイカ・メロン・トウモロコシ・落花生、そしてイチゴなど、最もおいしい時季をよく知っているようです。畑のそばの電柱には必ず見張りがいて、食べごろになると、その見張りの連絡で仲間が集まって、大挙して飛来し、根こそぎ食べてしまいます。カラスとの知恵比べは、ずっと続けています。



厄介者のカラス

【ハクビシンのこと】

近所のお寺にハクビシンが住みついていたことがありました。真夜中にそのお寺のそばを通った時、タヌキに似た動物を見たもので、ご住職に「お宅のお寺にはタヌキが住みついていますか?」と聞いたら、「あれはハクビシンだよ。あいつは、とうもろこしが大好きなようで、近所の農家の人がだいがぶられたと言っていた。気をつけるように。」とおっしゃいました。そう言えば、とうもろこしが綺麗に倒されて、実が全部無くなっていることがありました。「気をつけるように」と言われてもどうしようもなく、放っておきましたが、お寺が、墓地を拡張するため、山内の樹木を伐採し、綺麗に造成したら、ハクビシンもどこかへ引っ越してくれました。



ハクビシン

【近所の飼い猫たち】

種まきの準備で、綺麗に畝(うね)を作った時にかならずやってるのが、近所の飼い猫です。私の畑のすぐそばに、10匹以上の猫を飼っているお宅があるので。猫は柔らかい土が大好きなようで、新しく作った畝に、必ず排便をしてはの上に土をかけるので、結果として、蒔いた種がほじくりかえされることになります。これもまた、手の打ちようがありません。



畑に点々と猫の足跡



【犬のフンの始末について】

私の住んでいるのは、静かな田園地帯ですから、犬を飼っている方が多く、朝晩散歩をする姿を多く見受けます。困るのはフンの始末をしない人です。特に大型犬などは一度に大量の排便があり、それが畑にそのまま放置されていると、がっかりしてしまいます。すぐに、土中に埋めてしまうのですが、犬は毎回同じところに排便、排尿をする習性があるため、毎回その片付けをやらされるとたまったものではありません。こんな時には、日本人の民度(みんど)はまだまだ低いなあ!! と思ってしまいます。



《今年もジャガイモが花をつけました。豊作です。》

【終わりに】

田舎を、そして実家の周りの畑で農作業をするおふくろの姿を思い出しながら、家庭菜園を始めて13年経過しました。全くの素人が、専門書を読み、近所の農家の方に基本的なことを教えていただきながら、色々な野菜にチャレンジし、時には成功の喜びに浸り、時には挫折感を味わいながらの年月でした。野菜たち、そして畑にやってくる訪問者たちは、現役時代の強烈な充実感・達成感とはまた違った喜びを、私に与えてくれたように思います。

私にあと何年の余生があるか分かりませんが、動ける限り、野菜を作り続けようと考えながら、本寄稿を終わりにさせていただきます。

◆ 記事

佐藤 弘 (昭和40年機械科卒)
東京秋工会 副幹事長

補償コンサルタント・一級建築士事務所

株式会社 償 研

代表取締役 池田 昌憲 (昭和47年建築科卒)

本 社 / 〒010-0062 秋田市牛島東2丁目1番30号
TEL. 018-884-0966 ・ FAX. 018-825-0903
E-mail : main@shoken.tv

WASHIYA PROMOTION イベントや企業パーティーなど
★全国どこでもタレント派遣します★

有限会社
ワシヤプロモーション

代表取締役 鷺谷 透 (昭和56年機械科卒)

OFFICE / 〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町1-29 第2柴田ビル3F
TEL / 048-649-8993 FAX / 048-647-0073
URL : http://www.washiyapro.com/ E-mail : hibiki@washiyapro.com